

Cross-Cultural and Japanese Studies

国際日本学部

2020年4月開設

国際文化交流学科
日本文化学科
歴史民俗学科



今春、神奈川大学に「国際日本学部」が新設され、世界と自国の文化をより深く理解するための「新しい学びの場」として注目されている。国や地域の枠を超えて活躍できる、真の国際人の育成を目指し設立されたという同学部について迫った。

世界・日本・地域の架け橋となる人を育てる | 国際日本学部長 坪井 雅史 教授

2020年4月、神奈川大学に「国際日本学部」が誕生しました。目指したのは、多様な文化や価値観を理解し、足元にある「roots(根)」と広い世界に羽ばたく「wings(翼)」をともに学ぶ場であり、世界と日本、地域を結ぶ架け橋になれる、深い専門性と幅広い教養を兼ね備えた人を育てる学部です。

神奈川大学の国際日本学部は、国際的な視点から日本について考える「国際日本学」だけを学ぶ場でもなければ、外国から日本のことを学びに来た学生を主な対象とする学部でもありません。日本および世界からの学生が、自分の関心に合わせて、日本の文化や歴史・民俗、そして世界のさまざまな言語や文化を、広く・深く学ぶことができると同時に、そうした学生たちが互いに交流することで、多様な視点から日本や世界を見ることができるようになってほし

いと考えたのです。

そのため、学科の学びに軸足を置きながらも、学科の垣根を超えた学びも大切にしています。例えば、「学部教養科目」では、三つの学科の学生が日本や世界に関する共通の基礎的な科目を学べると同時に、「学科横断型ゼミナール」では、国際日本学部にも所属するおよそ60名の教員による専門的なゼミナールを学科の枠を超えて履修できます。さまざまな関心を持った学生同士が、同じ教室で意見を交えることで、学部内での異文化交流が促され、同じ事柄を多角的な視点から見るこの大切さを、日常的に体験できるようにしたのです。





🎓 留学生との文化交流やフィールドワークも

また、多くの留学生との文化交流ができることも、この学部の魅力になると思います。留学生や他学部・他学科の学生など、さまざまな価値観の異なる学生や、地域の人々とも交流ができるように、2021年に開設されるみなとみらいキャンパスでは、かなりのスペースを「グローバル・ラウンジ」や「ラーニング・commons」に充てています。教室の中だけではない、生活の中での学びを実現したいと考えたからです。

さらに、みなとみらい地区周辺には、キャンパスすぐ近くの横浜美術館だけでなく、JICA横浜、横浜開港資料館、横浜能楽堂、神奈川近代文学館、さらには横浜中華街など多くの施設が充実しています。国際日本学部では、どの学科でも、大学の建物を出て、これら街全体をキャンパスにしたフィールドワークなどを行う授業を多く開講しています。

もちろん、各学科の学びも充実しています。「国際文化交流学科」では、文化交流コースで、世界のさまざまな地域の文化が学べるだけでなく、観光文化コースでは、文化を

軸にした観光について、言語・メディアコースでは、ことばとメディアの特性を、また国際日本学コースでは、世界から見た日本の文化や社会についても学べます。「日本文化学科」では、日本語学や日本文学だけでなく、伝統的な日本文化やマンガなどのクール・ジャパンの文化についても学べます。「歴史民俗学科」は、日本の歴史だけでなく、日本のさまざまな地域の民俗を対象にした、地域創生に活かせる学びが特徴です。

神奈川大学国際日本学部で学び、日本のことを理解した上で世界に羽ばたいていける人、世界のことを理解した上で日本の地域文化の維持・発展に貢献できる人になってほしいと期待しています。



「日本力」と「笑いの力」で 日本の良さを世界に伝えたい

神奈川大学で教壇に立つ大島希巳江教授は、異文化コミュニケーション、社会言語学、ユーモア学が専門。日本のユーモアを海外に紹介しようと始めた英語落語は今やライフワークとなっており、アメリカ・フィリピン・インドなど、海外で公演活動を行っている。そんな大島教授に「日本力」、そして国際人に求められる力について話を聞いた。

大島 希巳江(おおしま きみえ) 教授

2002年国際基督教大学大学院 教育学(社会言語学)博士。コミュニケーション全般、および英語教育における“笑いとユーモアの効果”を専門研究とする。1997年より英語落語の海外公演を行う。自身も高座へ上がり、古典・新作落語を演じる。



「日本力」は 日本人の個性・日本文化を 伝える力

私が考える「日本力」は、自分の中にある日本人としての個性・日本文化を言語化し伝えることができる能力です。その力を育てるためには、まずさまざまな国や文化を知り比較することで自身を深く理解することが必要です。例えば日本では電車が時刻表通りに来るけれど、世界ではそれが当たり前ではないことがわかりますし、他国の死生観を知れば日本人は「死」を話題にすることが多いのに気づきます。異文化コミュニケーションとは最終的に自己発見につながるものなのです。日本の外に一步出れば、われわれは日本人という名の外国人です。そのことをよく理解し、英語など日本語以外の言語で日本についてしっかり説明できる言語

力も兼ね備えているのが真の国際人だと思います。

私は学生たちに「^{ハート}心をやわらかいクッションを持ちなさい」と教えています。自国の文化や自分の価値観と異なるものに会おうたび

にショックを受けたり嫌悪感を持ったりしては前に進めません。まずは異文化を受け止める心を持って、精査してから自分のものにするかどうか決めればいいんです。皆それぞれ固定観念や常識を持っていてしかるべきですが、常に頭の中の「当たり前ボックス」から一歩、二歩出て行く心の準備をしておきたいものです。あつという間に過ぎる大学4年間、学べることはそう多くはありません。まずはこうした柔軟な姿勢を作ることを目指してほしいと思っています。それこそが「日本力」のベースになるはずですよ。

今は日本にいながら世界中の情報が手に入る時代ですが、実際に観て触っておいを嗅いで体験してみないとわからないことはたくさんあります。最近は海外留学を目指す学生の数も減っているようですが、学生の皆さんには間違いを恐れずに新しいことにチャレンジしてほしいと思っています。英語に関しても頭の中で完璧な文章を作ることを待つのではなく、どんどん話してどんどん相手に直してもらえばいいんです。完璧なものは意外とつまらないですし、クリエイティビティは間違いや普通とは違う何かから生まれてくるものです。知識ががんじがらめになるのではなく、間違いを自分で笑い飛ばしながら歩いていくことこそが学びにつながる一番の早道です。常に変化する文化や自分自身を楽しみながら生きていく中にこそ、コミュニケーションの真髓があるのです。



ユニバーサルな「笑い」で 日本文化を伝える英語落語

研究のために国際ユーモア協会を訪れた際「日本人は面白くないよね」と言われたことがきっかけで、日本にもユーモアがあることを証明するため漫才、コント、川柳……さまざまなものを試してみました。日本の笑いの多くは今の日本社会や日本語をよく知らないと言えない内輪受けのもので、海外発信には向いていませんでした。ところが落語は違いました。400年の時を生き延びた落語の話には、とてつもなくドジな人、いばりんぼうのお金持ち、間抜けな権力者など世界中どこにでもいそうな登場人物が出てきます。そして話の本質も家族の愛情、友情、義理人情など誰もが感情移入できる非常にユニバーサルなテーマが語られています。

20年以上にわたり、世界25カ国以上で英語落語の公演を行ってきました。文化圏によって話の選択や調整で苦労することもあります。規制が厳しいパキスタンやブルネイでは公演前に原稿をチェックされ文化スポーツ大臣の前でリハーサルをすることも。欧米では「時そば」でそばをすすする音を不快に感じるだろうと思い、「こうして食べることで出汁の本当の風味やうまみを感じることができるんです」と最初に伝えました。落語が始まってからは音を立てるたびに拍手喝采が起きました。

古典落語は上手に演らないと日本人に対して誤解をまねいてしまうリスクがありますが、日本文化を正しく知ってもらうためにも積極的にチャレンジしていきたいと思っています。

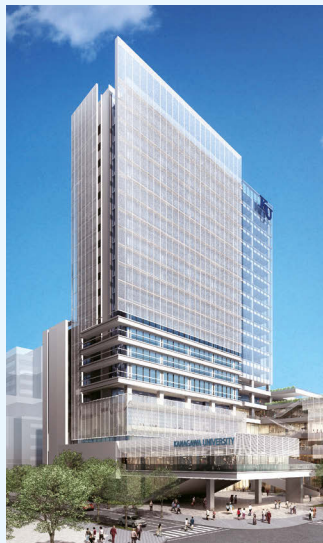
公演後はいつも「日本人って意外に面白いんだね!」と言われる。「近所に日本人家族が住んでいるんだけど今度話しかけてみようかな」と言ってくれた人も。人は思いきり笑わせてくれた相手を嫌いにはなれません。笑いには人と人を近づけるパワーがあるんです。そして面白いことを聞くと人に話したくなるので、日本人や日本文化の良さが自然と広がり人々の心に残ります。最近では、子どもの頃、私の落語をきいたというアメリカ人の子たちが留学生として研究室を訪れてくれることもあります。これからも英語落語を通して日本に対する関心・理解を深めながら、未来の親日家を育てる小さな芽を世界のあちこちの街に植えていきたい。そして私の学生たちにも相手を思いやるユーモアを発信できるような国際人になって海外へ飛び出してほしい。それが私の野望です。



News!

2021年 横浜 みなとみらいキャンパス誕生

地域や世界、人や情報がつながる
新しい《都市型キャンパス》＝「知の拠点」がまもなく完成



神奈川大学みなとみらいキャンパスの完成イメージ。地上約100m、21階建ての都市型キャンパス。およそ5000人の学生が新キャンパスで学ぶことになる。

2021年4月に開設される「みなとみらいキャンパス」には、国際日本学部をはじめ、外国語学部や経営学部が集結。

高さ約100m、21階建ての校舎に教室や研究室、学食などの施設が入る、都市型・未来型のこの新キャンパスに、新設の国際日本学部、外国語学部、経営学部のグローバル系3学部が集まり、周辺の国際企業や官公庁、文化施設などとの産官学連携がさらに強化され、独自の教育・研究が展開されるという。

さらに、地域に開かれたキャンパスでは、企業・一般の方も利用できる図書館や、さまざまな言語や文化が飛び交うグローバルラウンジなど、世代や国を超えた人の交流の輪が広がり、学びの機会が拡充するそうだ。

多様な「人」が集い「知」が交流する、世界と地域に開かれたこのキャンパスで、学生がどのように成長していくのか、ぜひ注目していきたい。